

障害者にやさしい地域社会の実現にむけて


 功労者

■ 団体名・氏名

伊方町精神保健
ボランティアグループ「なぎさ」

■ 基本データ

継続年数	18年間
主な連携先	社会教育関係団体、行政、家族会等
団体の規模等	180名
対象	精神障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

町民に、精神保健を中心とした社会福祉に対する理解と活動への参加を促したり、精神障害者と地域の橋渡し役として、相互交流の場づくり、イベント等の開催を通して、精神保健福祉に関する正しい知識の普及啓発活動を行ったりしています。また、周囲との関わりから、生きる喜びや自立に向けた生活支援も実施しています。

■ 活動内容

地域住民と共に環境美化に取り組み、障害者への理解を深めることを目的に、平成22年度より、ゴミ0運動を継続中です。また、外部との交流を促すため、大型スーパーや専門店で買い物支援をしたり、希望や要望を聞いて、2～3か月に1回程度、外出支援（バラ園や、そうめん流し、初詣、ボウリングなど）をしたりしています。買い物支援では、欲しいものを各々考えて購入するため、購入できた時の達成感もより一層高まります。

年に1度の七夕交流会やクリスマス会は、障害者やその家族にとって貴重な体験の場になっているだけでなく、障害に対する理解を深める場にもなっています。また、すみれ会では、毎月1回調理実習と昼食交流会を実施し、自立に向けた支援をしています。

これらの活動報告や、会員・参加者の声を届けようと、年2回「なぎさ通信」を紙面で発行しています。



写真2 七夕交流会飾りつけ作りの様子



写真1 ゴミ0運動の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和50年頃より、伊方町では家庭訪問を開始しました。町内に精神科医療機関がないため、精神デイケアなどを実施していく中で、2つの家族会が結成され、町営の小規模作業所が2か所開設されました。平成19年に第1回ボランティア講座を開催したのち、講座修了生が「伊方町精神保健ボランティアグループなぎさ」を立ち上げ、正会員30名、賛助会員150名で活動を続け、今日に至ります。

■ 活動の工夫・成果

毎月1回、カレーの日を設け、通所されている障害者の方と食事をしながら、ふれあえる場を設けています。お互いにリラックスした状態になることで、会話が弾みます。また、外部との交流を促すための外出支援では、環境の変化の中でも、参加者が自立して伸び伸びと活動できるような支援を心がけており、毎回楽しみにしてくれています。